

朝倉とともに 2018.7.15

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

第22号



前日に引き続き7月15日(日)朝9時から4名の防災士仲間が集まり、土砂の撤去と倒木等の処理を行った。気温は前日と同じく30度を超える真夏日での作業で噴き出す汗との戦いとなった。

日差しをさえぎる土砂

納屋一階部分に流れ込んだ土砂を重機が柱や基礎を傷つけないように慎重にアームを動かしていき。そのプロの技術に感心しながら手作業で土砂や埋まっていた器具等を取り除いていった。



午前中には、驚くほどの量があった土砂が見事に撤去され被災前の地面が見えてきた。仲間たちは歓声をあげるとともにスコップを握る手にますます力が入った。被災された方は「明るくなった」と、土砂に埋もれて日差しがさえぎられていた状況から脱したことに喜びの声をあげた。

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。早期の復旧・復興を祈念します。



焼けるような暑さの中で

午後からは土砂崩れによって流れ込んだ倒木等の処理を行った。埋もれていた倒木を重機が掘り起こし、樹木の太さ、大きさに分けてチェーンソーで一定の長さに切断していく。

この後、トラックに詰め込み、搬出するため、ある程度の長さに揃える必要がある。土砂撤去は日陰の作業もあったが、炎天下の中でさらに不慣れな作業で時間を要して体力を奪われながらも休憩を多くとり、作業を続けた。

水分と塩分補給 熱中症予防対策

土砂撤去や倒木処理作業と並行して敷地内に設置されていた柵の整理も行われた。家屋を取り囲むように柵があったが土砂によって破壊されてしまった。土砂を撤去しながら金網を切断し、柵を運んでいく。



連日の真夏日、全国的にも猛暑の気候でこの被災地も例外ではない。比較的日陰もあり、風が心地よい中での作業ではあったが、健康面を考慮し熱中症対策を十分に行っている。冷たい湧き水で体を冷やし、健康管理は各自で行った。

